

やまぐちっ子

# ICT 活用事例集

「個別最適な学び」と  
「協働的な学び」の実現

Vol. 3



子どもたちの学びを支援する  
山口県教育庁義務教育課  
令和4年4月

# 目 次

## 【小学校】

教科	学年	市町	P
国語	3年	平生町	1
	6年	岩国市	2
社会	3年	和木町	3
	3年	下関市	4
算数	1年	防府市	5
	2年	周南市	6
	5年	山口市	7
理科	4年	上関町	8
	4年	阿武町	9
	5年	和木町	10
生活	2年	萩市	11
音楽	4年	和木町	12
図画工作	全学年	山口市	13
家庭	6年	美祢市	14
体育	2・3年	岩国市	15
外国語	6年	山陽小野田市	16
道徳	4年	萩市	17

## 【中学校】

教科	学年	市町	P
国語	1年	柳井市	18
	2年	下関市	19
社会	2年	宇部市	20
数学	3年	周南市	21
	3年	山口市	22
理科	1年	周防大島町	23
	3年	長門市	24
音楽	3年	田布施町	25
美術	2年	宇部市	26
保健体育	3年	下松市	27
技術	1年	光市	28
家庭	1年	光市	29
外国語	1年	防府市	30

## 教科等の指導におけるICTの活用

### ○ICTを効果的に活用した学習場面の分類例

分類	細分化	活用例	機器の使用者
一斉学習	教員による教材の提示 (A1)	・大型提示装置や学習者用コンピュータを使って、画像、音声、動画などを拡大・書き込みながら提示	授業者
個別学習	①個に応じた学習 (B1)	・個々の特性に応じてカスタマイズできる学習者用デジタル教科書の使用 ・習熟の程度や誤答傾向に応じた学習者向けのドリルソフト等のデジタル教材の使用	児童・生徒
	②調査活動 (B2)	・インターネットやデジタル教材を用いた情報収集 ・動画等による記録	
	③思考を深める学習 (B3)	・シミュレーション等のデジタル教材を用いた学習課題の試行 ・デジタル教材のシミュレーション機能や動画コンテンツ等	
	④表現・制作 (B4)	・写真、音声、動画等のマルチメディアを用いて多様な表現を取り入れた資料・作品の制作	
	⑤家庭学習 (B5)	・動画やデジタル教科書・教材等を用いた授業の予習・復習	
協働学習	①発表や話し合い (C1)	・学習課題に対する自分の考えを、書き込み機能をもつ大型提示装置を用いてグループや学級全体に分かりやすく提示	児童・生徒
	②協働での意見整理 (C2)	・学習者用コンピュータ等を用いてグループ内で複数の意見・考えを共有	
	③協働制作 (C3)	・学習者用コンピュータを活用して、写真・動画等を用いた資料・作品をグループで分担・共同で作業しながら制作	
	④学校の壁を越えた学習 (C4)	・インターネットを活用し、遠隔地や海外の学校、学校外の専門家等との意見交換や情報発信	

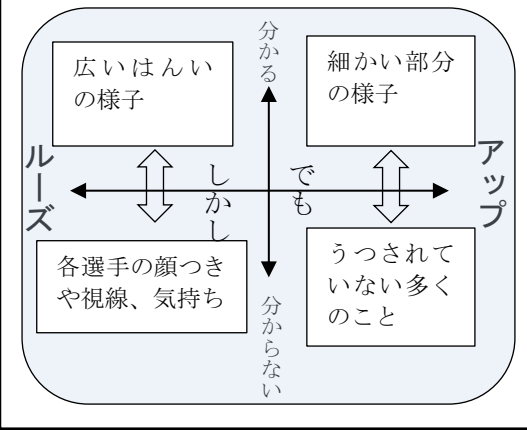
**主眼** 筆者の考えとそれを支える事例の関係について、叙述を基に捉えることができる。

**評価** 第4・5・6段落の関係に着目しながら、考えとそれを支える事例との関係について、叙述を基に捉えることができたか。

**【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】**

○対比されている内容を4分割の図に表すことで段落相互の関係を視覚的に理解することができるようにする。【B3】

○共有して考えが変わった場合は、加筆修正してよいことを伝える。【C1】



**アップ**  
 ・伝えられること  
 ・ゴールを決めた選手が全身で喜びを表す  
 ・相手選手の様子  
 ・おうえん席の様子

**ルーズ**  
 ・伝えられること  
 ・選手とおうえんした人たちが一体となって勝利を喜びあっている様子  
 ・伝えられないこと  
 ・選手の顔つきや視線、気持ち

↑  
 比べている (対比)

↑  
 分かる (伝えられる)  
 ↓  
 分からない (伝えられない)

↑  
 ④アップで分かること、分からないこと  
 ⑤ルーズで分かること、分からないこと  
 ⑥伝えられることと伝えられないことがある ↓ ④⑤段落のまとめ

めあて  
 「アップ」と「ルーズ」について④⑤⑥段落でどのように説明しているかまとめよう

アップとルーズで伝える  
 中谷日出

↑  
 広いはんいの様子  
 ↓  
 細かい部分の様子

見通す	解決	共有	振り返り
○「問い」をつかむ ・④⑤⑥段落	○④段落と⑤段落に書かれていることをまとめる。 ○4分割の図を児童に配信し、「アップ」と「ルーズ」で分かること、分からないことを付箋に書き、貼り付けさせる。【B3】 ○各自作成した4分割図を用いて、ペア、グループで説明する。また、クラス全体で共有し、確認する。【C1】	○④⑤段落と⑥段落の関係をまとめる。 ・「⑥段落にはどんなことが書いてあるのかな」	○本時を振り返る。 ・「比べて書いてあるので違いが分かりやすい。」
◆③段落の問い「アップ」「ルーズ」の違いについて考えることを押さえる。	◆④段落のアップで分かることをみんなで考えた上で作業手順を示し残りの3か所を各自で考えさせる。 ・教科書の分かること分からないことの部分に、サイドラインを引かせる。 ・「でも」「しかし」に着目させる。 ・タブレットでまとめたことを同時進行で板書する。	◆「このように」に着目して段落相互の関係を考えるよう促す。(まとめの時に使う言葉)	◆「④⑤段落が分かりやすいのはなぜだろう。」説明の仕方の工夫(構成が同じ)についてまとめさせる。

**主眼** 意見文の段落を並べ替えることを通して、大まかな内容と構成の工夫を捉えることができる。

**評価** 各段落の大まかな内容や構成を考え、並べ替えた根拠を説明できたか。

**【板書】**  
◎説得力があると思うところ

結論	本論			序論	段落と構成
⑤	④	③	②	①	
A	B	D	E	C	大まかな内容
まとめ	こと(提 案(自分 たちに できる	意見 資料 から 分かる 事実と	フェア トレード について	話題 提示	

◎世界に目を向けて意見文を書こう  
ばらばらになった段落を並べかえて、大まかな内容と構成の工夫を説明しよう。  
意見文・・・提案

**【ICT】**

A	B	D	E	C
---	---	---	---	---

**【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】**

○個別学習【B1】では、段落ごとにばらばらにしたカードを配付し、構成について一人ひとりが考える時間を確保する。また、色分けして提示することで、視覚的にも捉えやすくする。

○協働学習【C2】では、それぞれ並べ替えたカードを共有し、構成について根拠を基に話し合う。

<b>見通す</b>	<b>解決</b>	<b>共有</b>	<b>振り返り</b>
<p>○本時のめあてを確認する。</p> <p>◆5年生で学習した意見文を想起させることで、意見文には「提案」があることを確認する。</p> <p>◆前時のピラミッドチャートを意見文に書くという課題から、構成を読み取ることの必要感が生まれるようにしたい。</p>	<p>○段落ごとにばらばらにしたカードを配付し、並べ替える。【B1】</p> <p>○根拠となる箇所に線を引く。</p> <p>◆並べ替えることが困難な児童には、「序論」の段落を考えるように促すことで、考え方のポイントを確認できるようにする。</p> <p>◆文のつながりを見たり、「事実・考え・提案」はどこに当たるかを考えたりするように助言することで、本論の構成に気付くことができるようにする。</p>	<p>○班で考えを共有し、構成メモをつくる。【C2】</p> <p>◆構成メモを書かせることで、どのような構成や内容になっているかを確認できるようにする。</p> <p>◆できた班には、構成の工夫、説得力があると思うところを話し合うように指示する。</p>	<p>○全体で共有し、構成と大まかな内容を確認する。</p> <p>○本時の振り返りをする。</p> <p>◆意見文の構成が確認できるように、なぜその並び方になるのかについて叙述に基づいた根拠を確認する。</p> <p>◆次時に向けて説得の工夫に視点が向かうようにしていく。</p>

**主眼** スーパーマーケットのひみつを調べる活動を通して、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえて売り上げを高めるよう工夫されていることを理解することができる。

**評価** 見学時に撮った写真やメモの情報から、スーパーマーケットには消費者の多様な願いを踏まえて売り上げを高める様々な工夫が行われていることを理解することができたか。

〇/〇 めあて お客さんにたくさん買ってもらうために、スーパーマーケットはどのようなくふうをしているか調べよう。



カット野菜の写真

コンシェルジュの  
写真

くふう

- ①どこに何があるか分かりやすい。
- ②バラ売りだから買いたいものが買える。  
すぐに食べられるようにしている。
- ③コンシェルジュがいろいろなしつものに答えてくれる。

まとめ スーパーマーケットには買い物をする人が分かりやすいようにかんぱんやポップを使ったり、お客さんのしつものに答えたりする人がいるなど、さまざまなくふうがある。

ふりかえり

学習のきっかけ

解決

共有

振り返り

【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】

見学したときにタブレット端末で記録したスーパーマーケットの店内の様子（商品の陳列、看板、働いている人等）を大型掲示装置で映し、写真を拡大しながら共有することで、消費者の多様な願いと販売の工夫点との関係性を見出しやすくする。

【A1、B1、C1、C2】

○事前に家の人にアンケートをとり、消費者の願いを知る。  
【A1】

◆アンケート結果から見えてきた願いを基に、スーパーマーケットではどのような工夫をしているかを想起させる。

○売り場の工夫について写真を見ながら個人で考える。  
【B1】

◆児童が売り場で撮影してきた写真を基に、売り場の具体的な工夫について考えさせる。

○スーパーマーケットの工夫を大型掲示装置に映し、検討する。  
【C1、C2】

◆個人で考えた後、グループで共有する。  
◆消費者の願いと店の工夫を比較させる。  
◆他の写真を提示し、工夫点を仲間分けさせる。

○消費者の願いと店の工夫を比べて分かったことをまとめる。

◆キーワードを使ってまとめさせる。  
◆次回は、働く人の工夫について考えることを予告する。

**主眼** 集めた情報や考えを整理することを通して、醤油工場で働く人の願いに気づき、相手に伝えることができる。

**評価** 「ピラミッドチャート」を使って情報を整理することにより、工場で働く人の願いを見付け、友達と伝え合うことができたか。

調べたことから、工場ではたらく人のねがいを見つけ、友だちにつたえよう。

工場のくふうやこだわりについて集めたじょうほう

くふうやこだわりの理由

安心

安全

新せん

おいしさ

えい生

願いにつながる理由と、根拠になる情報を関連付ける

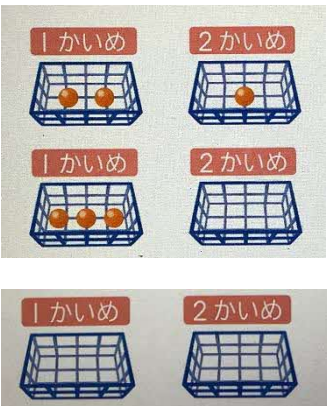
	学習のきっかけ	解決	共有	振り返り
<p><b>【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】</b> 「シンキングツール」である3段構成の「ピラミッドチャート」を活用し、順序立てながら情報や自分の考えを整理させる。【B3】</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> </div>	<p>○前時で集めた情報から、作り方、原料、気を付けていることの3つの観点で理由を考え、テキストに書く。 【A1、B2】</p> <p>◆自分で理由を書きことができない児童には、既習であるソーセージ工場でのピラミッドチャートを想起させ、考えるように促す。</p>	<p>○工夫やこだわりの理由をピラミッドチャートに整理し、学習支援ソフトの比較機能を活用しながらグループで話し合う。【B3、C1】</p> <p>◆グループ内で理由（中段）について自分の考えを伝えた後、願い（上段）について意見を交換させる。</p>	<p>○話し合ったことを基に生産者の願いを記入し、ペアで交流後、電子黒板に提示して全体で共有する。 【A1、B3、C1】</p> <p>◆「醤油工場の人はある願いがある。」という型に自分の考えた願いを書かせ、学習支援ソフトで共有する時間を確保する。</p>	<p>○醤油工場で働く人の願いとして分かったことを振り返るとともに、次時への見通しをもつ。</p> <p>◆次時は、醤油工場とオンラインでつなぎ、実際に工場で働く人々がどのような思いや願いをもっているかを聞き取ることを伝える。</p>

**主眼** 玉入れの場面から0のたし算の場面を理解し、式を立てたり、0のたし算の計算をしたりすることができる。

**評価**

- 0のたし算ができるか。
- 0のたし算を使った問題場面を進んでつくっているか。

㉞ 0のたしざん を しきに かいて けいさん しよう。



2 + 1 = 3  
3 + 0 = 3  
0 + 0 = 0

0もほかのかずとおなじようにしきにかくことができる。

練習問題

㉟ ☆0をたす=たすものがない  
☆0をたしても こたえは かわらない

㊦

**【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】**

○導入の場面において、複数の教師が行った玉入れの様子をビデオに撮って見せることで、本時の課題に興味をもたせたり、0を含む結果を提示したりすることができる。

**【A1】**

○学習支援ソフトを使い、絵を用いて問題をつくり、それを解き合うことで0を含むたし算の意味理解を深めることができる。【B4、C1】

学習のきっかけ	解決	共有	振り返り
<p>○玉入れのビデオを見て、本時の課題をつかむ。</p> <p><b>【A1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の把握</li> <li>・かごに玉がはいっていない状態は「0」</li> </ul>	<p>○玉入れの結果を式に書き、0が入ったたし算について話し合う。</p> <p>○0のたし算の練習をする。</p> <p>(□+0・0+□・0+0)</p>	<p>○学習支援ソフトを使って0を含むたし算の問題をつくる。【B4】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・0を含むたし算の場面</li> <li>・0が入った式の意味理解</li> <li>・0のたし算の定着</li> </ul>	<p>○作った問題を出し合い、振り返りをする。【C1】</p>
<p>◆かごに何も入ってなくても0として式に表してよいことを確認する。</p>	<p>◆0を含むたし算の意味を理解しやすいように、絵から立式するとともに「0+3」の式から玉がどのように入った場面なのかを考えさせる。</p>	<p>◆日常生活の具体的な場面で問題をつくるよう指示する。</p> <p>◆後で、全員が問題を解くことができるように、絵で問題をつくり、学習支援ソフトで提出させる。</p>	<p>◆児童が作った問題を解き合うことで、本時で学習したことを自覚できるようにする。</p>



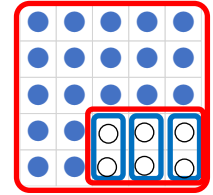
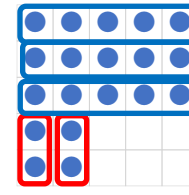
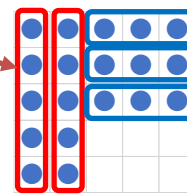
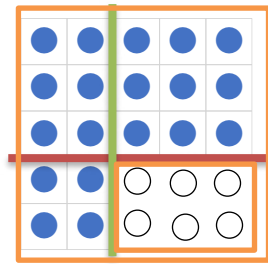
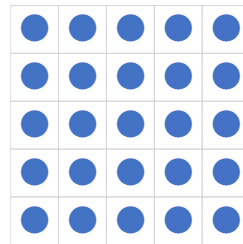
**主眼** アレイ図を使い、同じ数のまとまりに着目させることで、L字型に並んだものの数を、かけ算を用いて求めることができる。

**評価** 同じ数のまとまりに注目し、全体の数をかけ算を使って求めることができたか。

チョコレートの数はいくつ？

$2 \times 5$  もできる

④ チョコレートの数をかけ算をつかって求めよう。



しき  $5 \times 5 = 25$   
1つ分 いくつ分

答え 25こ

かけ算を見つけよう。

友だちの考えを送り合い、タブレット端末で確認したり見せながら説明したりする。

5こずつが2こ分 3こずつが3こ分 合わせる しき $5 \times 2 = 10$ $3 \times 3 = 9$ $10 + 9 = 19$ 答え 19こ	5こずつが3こ分 2こずつが2こ分 合わせる しき $5 \times 3 = 15$ $2 \times 2 = 4$ $15 + 4 = 19$ 答え 19こ	5こずつが5こ分 (全体) 3こずつが3こ分 (ない部分) 全体からない部分をひく しき $5 \times 5 = 25$ $25 - 6 = 19$ 答え 19こ
---	---	--

かけ算を作ることができるまとまりを見つけて、合わせる。全体から、ない部分を引いて求める。

【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】

タブレット端末内のカードになっているアレイ図に描き込ませることで、色を変えて描き込ませたり、何度もやり直したりすることができる。また、あらかじめ複数枚用意しておくことで、複数の方法を考えることが容易にできる。【B1】



学習のきっかけ

解決

共有

振り返り

○縦5列、横5列に並んだアレイ図とL字型に並んだアレイ図を比較し、課題をつかむ。

○タブレット端末に表示されたL字型のアレイ図をまとまりごとに丸で囲み、かけ算を作る。【B1】

○囲み方やかけ算の式についてグループ内で発表し、その後全体で共有する。【A1、C1、C2】

○L字型アレイ図のかけ算を使った求め方についてまとめる。  
○練習問題を解き、定着を図る。  
○学習の振り返りをする。

◆2つの図を比較させることでかけ算が作れそうな分け方について気付くことができるようにする。

◆友だちの考えと比較させることで、多様な考え方で解決に迫ることができるようにする。

◆グループ内で考え方の違いに気付かせ、分類しながら全体で共有する。

◆かけ算を用いることのできるようまとまりをつくる工夫について振り返らせる。

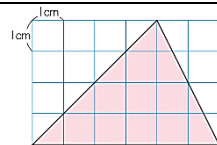
**主眼** 既習の面積公式を使うことを通して、直角三角形以外の三角形の面積のいろいろな求め方を考えることができる。

**評価**  
 ○図を使いながら、三角形の面積の求め方を考えたり、説明したりしているか。  
 ○既習の面積公式をもとに、三角形の面積の求め方を多面的に捉え、進んで見いだそうとしているか。

㊦ これまでの面積の公式を使って、いろいろな考え方で三角形の面積を求めよう。

板書

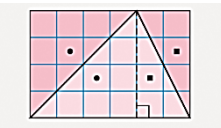
㊦ 129 ページの㊦の三角形の面積を求めましょう。



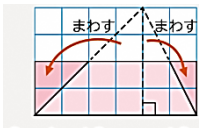
$$4 \times 4 \div 2 = 8$$

$$4 \times 2 \div 2 = 4$$

$$8 + 4 = 12 \quad 12\text{cm}^2$$



$$4 \times 6 \div 2 = 12 \quad 12\text{cm}^2$$



$$2 \times 6 = 12 \quad 12\text{cm}^2$$

・どの求め方でも、答えは同じ  
 ・長方形の面積の半分になっている。

㊦ 三角形の面積は、三角形を囲った長方形の面積の半分になる。

ICT 画面等

教師機 (電子黒板)

児童機 (Google Jamboard)

【主眼的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】

- 一斉指示【A1】で、課題を確認するために教師機で図を提示し、全体で確認する。
- 個別学習【B1】で、考えをまとめるために、児童用デジタル教科書の図を参考に自分の考えをノートやJam boardの付箋にまとめる。
- 共同学習【C1、C2】で全体の発表に向けてペアで考え方を確認し、Jam boardに整理する。
- 個別学習【B4】Google スプレッドシートを使い、振り返りを行う。

学習のきっかけ

解決

共有

振り返り

○㊦の問題と図を提示し、課題をつかむ。  
**【A1】**

- ・これまでの学習を振り返り、面積の求め方の見直しをもつ。

◆前時で学習した直角三角形ではなく、一般的な三角形であることをおさえる。

○面積の求め方を考える。  
**【B1】**

- ・考え方を図・式・ことばで表す。

◆Jamboardのデータを配布し、直接書き込んで説明することができるようにする。

○それぞれの考え方を比較する。  
**【C1】**

- ・2つの直角三角形に分けて、それぞれ求める。
- ・大きな長方形の面積を求めて、半分にする。
- ・はみ出したところを動かして、長方形に変形する。

◆Jamboardに書き込んだ考え方を全体で発表し合い、考え方を比べるようにする。

○考えの共通点を探し、振り返りを行う。  
**【C2、B4】**

- ・どの求め方でも、面積は同じになり、大きな長方形の面積の半分になる。
- ・ファイル共有機能を用いて振り返りを行う。

◆3つの考え方を比べ、共通点を見つけるよう促す。

**主眼** グループでの話し合い活動を通して課題解決をしていくことで、2学期の単元「月や星の動き」「とじこめた空気や水」「ヒトの体のつくりと運動」「秋の生き物」で学習した内容を振り返ることができる。

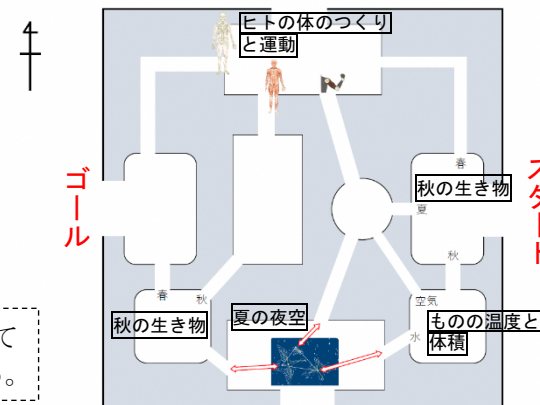
**評価** グループで話し合いながら迷路を解き、2学期の内容を確認することができたか。

## ○／○ 話し合っ、宇宙人のちょう戦じょうのなぞを解決しよう

### 【板書】

君たちへのちょう戦だ！  
2学期の理科の学習で学んだことをもとにして、ピラミッドの中にかくした暗号をといていけば、われわれの住む星がどこか分かるはず。  
君たちに、このなぞがとけるか？

### 【ICT画面】理科の既習内容を盛り込んだピラミッド型迷路



【補足説明】 右図の迷路は、ヒントを解くことによってスタート、ゴールを含めた道順が分かるようになっている。

### 【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】

- 課題配信機能を活用して各児童に異なった情報を送り、話し合いをしようとする意欲を高める。【B1】
- 話し合い活動で得られた情報を基にした自分の考えを、タブレット端末上で表現する。【B1】
- それぞれの情報を交換することで解決できる課題に取り組み、協働で課題解決をめざすよさを味わう。【C2】

### 学習のきっかけ

○宇宙人へのちょう戦という形で、既習事項の復習を含んだ課題を提示し、ジグソーメソッドで構成されたヒントを個別に配付する。  
【A1、B1】

◆Google Classroom を使って、個別にヒントを配付する。  
(ヒント例1)  
宇宙人は、朝日が差す門だけ開けておいてくれる  
(このヒントでスタートが東口と分かる)

### 解決

○自分へのヒントを紹介しながら話し合い、ピラミッドをどのルートで通り抜けるか考える  
【B2、B3、C1、C2】

◆Jamboard 上で共同作業を行いながら話し合い活動をさせることで、お互いの情報を交換しようとする意欲を高める。  
(1グループ8名で実施。1人あたりのヒントは2～3点)

### 共有

○共同作業を通して、話し合いの中で必要となった理科の既習事項について確認し合いながら課題解決を進める。  
【B3、B4、C1、C2】

◆理科の教科書やノートを活用させることで、課題解決に必要な理科の既習内容を振り返らせる。  
(ヒント例2)  
「生き物の部屋」では、カマキリが卵を産む季節を選べ

### 振り返り

○話し合ったことで課題を解決できたことに気付くとともに、課題解決のために必要となった既習事項について再確認する。【A1、B1】

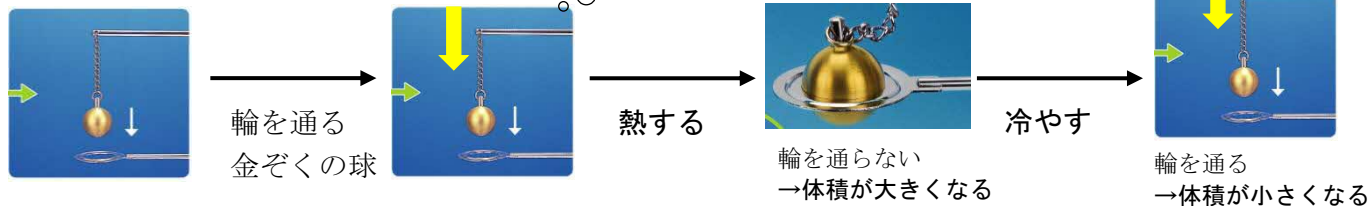
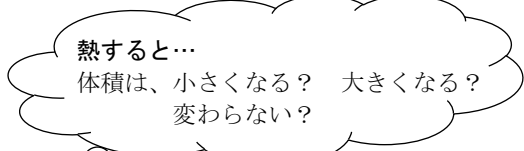
◆自分の発表がなければ課題解決ができなかったことに気付かせることで、話し合い活動に対する自己有用感を高めさせる。

**主眼** 既習の内容や生活経験を基に根拠をもって予想し、金属をあたためたり冷やしたりしたときに体積変化が起きることを理解できる。

**評価** 加熱器具などを正しく扱いながら実験し、実験前の予想と得られた結果との比較を基にして、温度による金属の体積変化について理解することができたか。

○/○ (○) 物の体積と温度

㊦ 金ぞくの体積と温度の関係について調べよう。



㊦ 金ぞくは、熱せられると体積が大きくなり、冷やされると体積は小さくなる。

㊦ 金ぞくも、空気や水と同じようにあたためると体積が大きくなり、冷やされると体積が小さくなる。

【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】

- デジタル教科書を用いることで、加熱器具の扱い方についての説明が理解しやすくなり、安全に実験を行うことができる。【A1】
- 実験の説明を、動画を用いて提示することで、実験の時間を確保することができる。【A1】

学習のきっかけ	解決	共有	振り返り
<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験方法の動画を提示する。【A1】</li> <li>○金属を熱する、冷やす方法について確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験を行い、金属の体積と温度の関係について確認する。</li> <li>○実験中にも、大型提示装置で実験方法を提示し、常に実験方法を確認できるようにしておくことも考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験結果を大型提示装置に示し、温度による体積変化について意見を練り上げる。【A1】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体積と温度の関係について、金属と空気、水の共通点と相違点について考察する。</li> <li>○タブレット端末に実験の振り返りを保存しておくことで、空気と水の実験の振り返りとの比較が容易になる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆実験道具の正しい扱い方を確認して、安全に実験ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆実験結果を記録しておく。タブレット端末に動画を保存して、後で確認することもできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆空気、水の体積と温度の関係と実験結果を関連付けて考えられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆空気、水の実験との共通点と相違点を問い、考察の視点を引き出す。</li> </ul>

**主眼** 水の量や流路を決めた流水のモデル実験をとおして、流れる水の浸食・運搬・堆積による土地の変化の仕組みを見出し、図や言葉で表現することができる。

**評価** 水の量や速さを制御した実験を行い、タブレット端末等を活用して観察をしながら流れる水の働き(浸食・運搬・堆積)に気付き、図や言葉で表現することができたか。

10/4(月) **め** ただ水が流れただけなのに地面の様子が変わるのはなぜか

<予想> ・水の流れが速くて、水が地面をけずるから  
 ・水の量が多いと、大きな石を流すから

★どこから、どう、さつえいするか?  
 ・アップでさつえいした方が分かる。  
 ・「川」の上・中・下で分担したらよい。

★水：色、速さ、幅・・・、地面：粒の大きさ、岸・谷・・・  
 働き：けずる、流れる、たまる、・・・ <変化、ちがひ、共通点>

<実験方法>	水	流路
A 半分で流す回数(量)	1回	変えない
	2回	変えない
B 一気に流す量(速さ)	半分	変えない
	一杯	変えない

<結果・考察>

【流れた後の地面】	
○深くけずられたところがある。	・水をたくさん流すとけずれる。
○場所により粒の大きさが違う。	小さい粒の方が流されやすい。等
【水の流れ方】	
○カーブのところはふくらんだ。	・カーブの外側は水は速く流れる。
○狭い・広いところがあった。	・せまいところは流れが速い。等

◎まとめ  
 ・水が流れると、土がけずられたり(しん食)、運ばれたり(運ばん)する。水の量が多い・流れが速い→しん食や運ばんの働きが大きい。  
 ・水が流れていった先に、土がたまる(たい積)。


㊦ 流れる水は、～

写真

**【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】**

実験は屋外での活動のため、分担してタブレット端末で動画を撮影しながら観察をさせる。さらに教室で比較をしながら再生するなどして、結果の整理・考察の話し合いを促す。

【B2、C3】



学習のきっかけ	解決	共有	振り返り
○前時の学びや同じ形の「川」の図を送信しておく、屋外でも各自タブレット端末で確認できるようにしておく。【A1、B1】 ○水の流れや土地の変化の記録の方法を発表し合う。	○土山を利用して水を流して、水の流れや地面の様子をタブレット端末で撮影しながら観察する。【B2、C3】 ○撮影箇所を分担してアップで動画を繰り返し撮影し、動画を比較再生等するようにする。	○話し合った流水実験の結果や気づきをモデル図に記入し、説明し合う。【B3、C2】 ○記入したモデル図をタブレット端末で撮影・送信(提出)させ、全体でもより交流しやすくする。	○用語を知り、流れる水の働きについて考えたことを書く。【A1、C1】 ○小瀬川の写真を提示したり、振り返りをタブレット端末を使って記述し送信(提出)させたりする。
◆予想で用いた同じ形の「川」の図を提示し、撮影場所や撮影の仕方を考えさせる。	◆爪楊枝を流路の側に刺しておく、流れる水の働きによる地面の変化がより分かりやすくする。	◆予想等で用いた「川」の図を提示し、事実と考察を色分けして記述させる。	◆今回の実験の様子と実際の川の様子との比較を促す。

**主眼** まちたんけんを通して地域で見つけたよさを1年生に分かりやすく紹介することができる。

**評価** 好きになった場所や親しくなった人々などのことを振り返りながら、1年生に分かりやすく紹介することができたか。

単元のめあて「まちたんけんをして みつけたよさを 1年生に しょうかいしよう」



商店でインタビュー

1年生に伝えている場面



振り返り

まちたんけんで見つけた海のきれいさが伝わるように、しゃしんを大きくしたら、1年生が「わあ、きれい」といつてくれたのでうれしかったです。

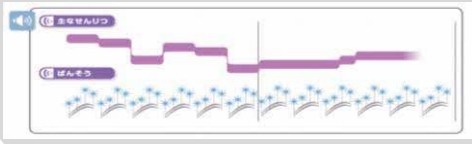
お店ではたらいっている人がやさしく声をかけてくれて、また行きたいと思ったことを、大きな声でまちがえずにいえてよかったです。

【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】

- 「まちたんけんをとおして地域で見つけたよさを1年生に分かりやすく紹介する」という明確なゴールに向かって、児童が毎時間タブレット端末を活用することができる。【B1】
- 伝えたい相手を意識しながら、画像を撮影したり、プレゼンテーションを作成したりすることができる。【B1、B4】

学習のきっかけ	解決	共有	振り返り
<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域に探検に出かけ、越ヶ浜らしい場所やお店、1年生に紹介する場所の画像をタブレット端末で確認する。【B1】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時に各自が学習支援ソフトで作成したプレゼンテーションを確認する。【B1、B4】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○タブレット端末で作成したプレゼンテーションを見せながら、1年生に越ヶ浜地域の様子を伝える。【C1】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まちたんけん各自が気付いたことを1年生に紹介することができたかを振り返る。【B1、B4】</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆本当に伝えたいものを撮影しているか、個人情報に関わるものを撮影していないか等を確認しておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆伝わりやすいように、写真と短い言葉で表現できているか、文字の大きさ、色はどうか等の確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆発表するときには、タブレット端末を見るのではなく、相手の方を見て話すなど、相手を意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆振り返りの記述の中から、地域のよさや地域で働いている人々への気付きを見取る。</li> </ul>

<p><b>主眼</b> 曲に合わせて体を動かしたり、動きと曲名との関わりを考えたりする活動を通して、旋律の特徴やよさについて感じ取ることができる。</p> <p><b>評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○曲想と旋律の特徴や速度との関わりに気付くことができたか。</li> <li>○曲想と旋律の特徴との関わりに興味をもち、曲全体を味わって聴くことができたか。</li> </ul>	<p><b>めあて</b> 曲の速さや旋律の動きに着目し、白鳥らしさを見付けよう</p> <p>イメージした動物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジュゴン</li> <li>・コアラ</li> <li>・ウミガメ</li> </ul> <p style="text-align: center;">↑</p> <p>そう思った理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動きがゆっくりだから</li> <li>・ばんそうがきれいだから</li> <li>・悲しそうに感じたから</li> </ul>	<p>電子黒板</p> <p>提示の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①図形楽譜</li> <li>②演奏の様子</li> <li>③演奏の動画</li> </ol>	<p>曲名 「白鳥」</p> <p>白鳥らしいところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動きがゆっくり</li> <li>・音の上がり下がりが羽の動きににている</li> <li>・ばんそうが水面を表している</li> </ul> <p>使われている楽器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノ</li> <li>・チェロ</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>ふり返り</b></p>
--	--	--	---


<p><b>【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント</b></p> <p>チェロの旋律と、ピアノの伴奏をそれぞれ指でたどって旋律の動きを確かめたり【C1】、旋律を別々に聴かせそれぞれの音に注目して白鳥の動きをイメージさせたりするために、図形楽譜を電子黒板で共有する。【A1】</p> 	<p><b>学習のきっかけ</b></p>	<p><b>解決</b></p>	<p><b>共有</b></p>	<p><b>振り返り</b></p>
<p>○曲を聴いて、全体の雰囲気をつかんだり、曲から動物を想像したりする。</p> <p>◆曲名を告げずに聴かせ、自由にイメージさせる。細部まで聴くよう助言する。</p>	<p>○イメージしたことが音楽を形づくっている要素のどの部分と関わりがあるかを考える。</p> <p>◆イメージした理由を言語化させることで、それが旋律の特徴であることに気付かせる。</p>	<p>○図形楽譜から旋律の特徴や、伴奏の役割について考える。 【A1、C1】</p> <p>○曲に合わせて体を動かす、白鳥らしいところを話し合う。</p> <p>◆めあてを提示し、旋律に合わせて体を動かす、白鳥の様子をイメージさせる。</p>	<p>○自分の考えと、友達の考えを比べて気付いたことをまとめる。</p> <p>○最後に動画によって演奏している様子を見ながら、旋律の動きや特徴を確認する。【A1】</p> <p>◆曲名と一致していると自分が感じたところを書くように促す。</p>	

**主眼** この後の絵の結末を考える活動を通して、絵の中の情報を根拠に想像を広げ、自分の見方や考え方を広げることができる。

**評価** 作品の今後の展開を、絵に描かれていることを根拠に推察することができたか。

**【板書】**

アートたんけんたい ～ようこそ、絵のせかいへ～



ライオン 男?女? ピンクのかみ 黒いはだ ねている 死んでいる ギター? たび人 カラフルなふく

月夜 ほし空 明け方 日本× アフリカ さばく 山海 花びん 水くみ

①め 絵の中にあるお話を広げよう

Q ライオンはたび人をこの後たべてしまうか?

たべる 食べない  
 ⇒ライオンの目が 怖いから 見はっているか  
 ⇒ねているかどうか、見ていると思う。 ⇒しっぽが立っている、よるこんでいるから。

Q もう一度、タイトルをつけるとしたら?

・月夜のはらペコライオン ・たびする二人  
 ・あいぼうをまもるライオン

**【ICT画面等】**



電子黒板やタブレット端末に画像データを映し出す。



タイトルを共有する際、スライドを用いたり、大型提示装置を用いたりする。

**【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】**

○全体を俯瞰して見たり、細かいところを詳細に見たりするために、アップやルーズなど、見方を自在に変えられるように、画像で映し出す。【A1】

○児童が手元で他者の意見を比較、検討できるように、Googleスライドを用いて意見の整理を行うようにする。【C2】

学習のきっかけ	解決	共有	振り返り
<p>○最初の印象から、自分なりのタイトルをつける。</p> <p>○何が描かれているか鑑賞し、情報を出し合う。【A1、B1、C1】</p>	<p>○ライオンが旅人を食べるかどうか、どちらかの立場に立ち、個人で意見をまとめる。</p> <p>○絵に描かれていることを根拠に理由を考える。</p>	<p>○それぞれの立場の根拠を全体で示しながら、意見を共有し、解釈を広げる。【B3、C1】</p> <p>○他者の意見に対して、質問をする。</p>	<p>○友だちの見方の中で共感できたものについて振り返る。</p> <p>○もう一度タイトルを付けるとしたら、どのようなタイトルを付けるか考える。【C2】</p>
<p>◆タブレット端末で、アップとルーズなど見方を変えながら鑑賞するよう促す。</p>	<p>◆板書で色・形を中心に見方を分類し、後の鑑賞に生かせるようにする。</p>	<p>◆電子黒板で、根拠となった箇所に印を付け、見方の差異に気付くようにする。</p>	<p>◆タイトルが変わった理由を問い、他者の見方に触れた実感を引き出す。</p>



**主眼** 写真や動画で靴下の洗濯の仕方を比較することを通して、適切な洗濯方法を判断することができる。

**評価** 手洗いと洗濯機を使った洗濯の様子を比較し、適切な選択方法を判断することができたか。

よりよい洗たくの仕方を考えよう

前回の洗たくをふり返って

もみ洗い

- ・広く洗える
- ・早い
- △ひどい汚れは落ちにくい

つまみ洗い

- ・強く洗える
- ・きれいになる
- △時間がかかる

汚れが残った場所 → つまみ洗いがよい

洗濯機と比較

- 力強い
- ぐるぐる回る → もみ洗いみたい
- △時間がかかる(靴下1つ) → たくさんあるときはよい
- △使う水の量が多い → エコではない

ふり返り

- ・汚れ方や量で洗い方を使い分けるとよいことが分かった。

靴下1足を洗濯機で洗う様子の動画を視聴する。

前時にタブレット端末で洗濯前の靴下の写真と洗濯の様子動画を撮影しておき、考察する。

**【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】**

- 前時で洗濯の実習を行う前に、汚れた靴下の様子を写真撮影し、洗濯の様子をペアで動画撮影する。本時で、乾いた靴下と写真を比較し、動画で振り返ることで、洗濯の仕方の考察につなげることができる。【B3】
- 同じ条件(靴下1足)で、洗濯機を使った様子の動画を視聴することで、生活場面に応じた適切な洗濯方法について考えることができる。【A1】

学習のきっかけ	解決	共有	振り返り
○前時で洗濯した際の気づきを交流する。	○乾いた靴下の実物と洗濯前の靴下の写真を比較する。【B3】 ○洗濯している様子の動画記録を見て、気づきをノートに記述する。【B3】	○気づきを全体で交流する。 ○子どもの発言をもとに、洗濯機での洗濯の様子を見て、気づきを交流する。【A1】	○それぞれの洗い方の特徴をもとに考察する。 ○分かったこと、これから生かせそうなことを観点に振り返る。
◆前時の振り返りをもとに、もみ洗い、つまみ洗いをした際の違いやよさ、課題を取り上げる。	◆板書上で、図と発言を関連付け、課題を明確にする。	◆生活場面と関連した発言を受けて、洗濯機を使用した動画を視聴する。	◆生活場面との関連を捉えている子どもの気づきを見取り、意図的に指名する。

㊦ チャレンジするわざのポイントをいしきして わざをきめよう。

き本のうん動

- ①アザラシ
- ②ワニ
- ③犬
- ④クモ
- ⑤丸太ころがり
- ⑥だるまころがり
- ⑦ゆりかご
- ⑧川とび
- ⑨ブリッジくぐり

き本

- ◎ゆりかご
- 丸太ころがり
- だるまころがり
- 前ころがり
- 後ろころがり

2年生

ちょうせん

- ◎ウサギとび
- ◎川とび
- △カエルの足うち
- △カエルのさか立ち
- △アンテナ
- △かべのぼり逆立ち

(ふりかえりのポイント)  
 ・せ中をまるめて、おなかを見るとよい。  
 ・後ろころがりは、さい後にマットをグッと押した。

等

き本

- ◎前転
- ◎後転
- ◎かべとう立
- △頭とう立

3年生

発てん

- △開きやく前転
- 開きやく後転
- しんしつ後転
- △そく方とう立回転
- △わざの組み合わせ

(振り返りのポイント)  
 ・おしりを高く上げたら、勢いよくまわった。  
 ・どの技も、どこを見るかが大切。

等

学習の流れ

- ① じゅんび運動  
→ き本の運動
- ② ふく習とめあて
- ③ ペア練習
- ④ 発表
- ⑤ ふりかえり
- ⑥ かた付け

主眼

2年 自分や友達のよい動きを見付け、伝え合いながら、転がったり体を反らせたりするなどのマット遊びをすることができる。  
 3年 課題解決のための活動を選び、友達と意見交換しながら、自己の能力に適した回転系や巧技系の技をすることができる。

評価

2年 自分や友達のよい動きを見付け、伝え合いながら、進んでマット遊びができたか。  
 3年 課題解決のための活動を選び、友達と意見交換しながら自己の能力に適した技をすることができたか。

学習のきっかけ

解決

共有

振り返り

【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】

個別学習、協働学習では、児童が動きや技のポイントが分からない時や、どのように改善すればよいか分からない時に、自分で正しい動き（撮影した動画やインターネットの手本の動画）を比較しながら、いつでも、何度でも確認できるようにする。  
 【B1、B4、C1、C2】

○これまでの動きや技の一覧から自分の課題を見付ける。

◆これまでの動きや技の一覧に、技の正確さを花丸、◎、○、△でメモしておき、個人の成果と課題を意識できるようにする。

○本時のめあてを1人ずつ発表し、めあてを意識・共有する。

◆めあてを自分で意識するだけでなく共有することで、互いに教え合えるようにする。

○タブレットで自分の動きを録画したり、手本の動きを確認したりする。【B1、B4】  
 ○撮影した動画を見ながら自分や友達のよい点や改善点を共有する。【C1、C2】

◆自分たちの動きを繰り返し見たりスロー再生したりしながら、技のポイントを正確におさえられるようにする。課題がある場合は、どのように変えるとよいかを互いに助言させる。

○練習した技を発表し成果と課題を明らかにする。【B3】

◆撮影した動画を見ながら、自分のどこがよかったか、どのようにしたらよくなったかを振り返る。また、課題がある場合は、どこが足りなかったのかを書かせ、次時につなげられるようにする。

**主眼** 過去形を用いて、夏休みの思い出を友達に紹介することができる。

- 評価**
- 夏休みの思い出について過去形を用いてスピーチしているか。
  - 夏休みの思い出が相手に伝わるように、相手の反応によって、文を付け足したり、言い換えたりするなどの工夫しながら、スピーチができているか。

Day:○○ , Date:○○ , Year :2021 , Weather: sunny and warm

time      Goal : 夏休み新聞を紹介しながら、夏休みの思い出を聞き手に分かりやすくスピーチしよう。

How was your summer vacation?

[speaker]  
 I went to the mountains with my family.  
It was exciting! ← [Plus words]  
 I ate watermelon.      ·It was~  
I like watermelon. ← ·I like~/I can ~  
 I enjoyed camping.  
 I played badminton.  
It was fun!

Sounds good !

✿gesture  
 ✿clear voice  
 ✿eye contact  
 ✿memorize

**【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】**

- タブレット端末を活用し、友達にスピーチを撮影してもらおうようにする。児童が試行錯誤しながら工夫を加えていけるように、自分のスピーチを確認する時間を設ける。撮影してもらったスピーチの中から、児童自身が納得したものを選び、指定されたフォルダに動画を提出する。【B4】
- 児童のパフォーマンスを向上させるために工夫してパフォーマンスを行っている様子を、ICTを活用して全体に共有する。【A1】

つかむ	考える	学びあう・広げる・深める	振り返る
○デジタル教材の英語の歌を歌ったり、small talk を行ったりしながら、過去のことを表す言い方を振り返り、本時のめあてを確認する。【A1】 ○既習内容から、夏休みの思い出をスピーチする上で活用できそうな表現を全体で考える。	○ルーブリックを確認しながらスピーチの練習をしたり、友達からの助言をもらったりしながら、スピーチの工夫を考え、タブレット端末を使って友達にスピーチを撮影してもらおう。【B4】 ○撮影してもらったスピーチの様子を自分で確認する。【B4】	○模範となる児童のスピーチを全体で共有し、よいと思った点を伝え合う。自分のスピーチに取り入れたいことを確認し、もう一度スピーチを友達に撮影してもらおう。【A1・B4】	○自分のパフォーマンスを振り返り、ルーブリックに記入する。 ○振り返りシートに工夫したことやこれからの学習に向けて頑張りたいことなどを記入する。
◆本時の活動に対する意欲をもたせるために、デジタル教科書やパワーポイントを活用しながら、スピーチに使用する過去形の言い方や夏休みに関する語句について振り返る時間を設ける。	◆子どもたち同士でタブレット端末を活用しながらスピーチの撮影を行い、撮影してもらったスピーチを自分で見返したり、アドバイスし合ったりする時間を設ける。	◆工夫してスピーチしている様子を見取り、全体に見せながらよいと思ったところを考えさせる。全体でよさを共有することで、子どもが自身のスピーチと比べながら、技能を向上していけるように促す。	◆スピーチの活動を通してできるようになったことや工夫したこと、これから頑張りたいことなどを書くように声かけを行う。

<p><b>主眼</b> 誰に対しても偏見をもつことなく、公正・公平な態度で接しようとする態度を養う。</p> <p><b>評価</b> 誰に対しても偏見をもつことなく、公平・公正な態度で接するために、日常生活の中で、学びをどのように生かすか考えることができたか。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「だれに対しても平等にせつする」とは、どういうことだろう。</p> <p>アンケート あなたは、誰に対しても同じように接していますか？</p> <p>リアルタイムでアンケート結果を表示</p> <p>○友だちの苦手なところ↓決めつけていない？ 「決めつけないで」</p> <p>劇の主役決め〃チサトさんが立候補</p> <p>「わたし」と「よう子」〃チサトさんには無理</p> <p><b>「なぜ？」</b>・話すときに言葉につまる。 ・ふだんからあまり人前で話をしない。</p> <p>○「わたし」と「よう子」の考えは間違っているの？</p> <p>〈間違っていない〉 ・話す時につまんで心配。 ・もつといい人がいると思うから。</p> <p>〈間違っている〉 ・本当はできるかもしれない。 ・やりたいのに無理って言われてかわいそう。</p> <p>○チサトは、なぜ、主役をしたと言ったのだろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自信をつけたかった。</li> <li>・変わりたいと思ったから。</li> </ul> <p>◎「決めつけないために」大切なことは何だろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手のことを考える。</li> <li>・自分の考えだけで判断しない。</li> </ul> </div> <p>振り返り 視点…学んだこと、日常で気を付けること</p>
--	--

	見通す	解決	共有	振り返り
<p><b>【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】</b></p> <p>○導入時に、実態把握のためのアンケート結果を瞬時に表示することで、より自分事として捉えることができるようにする。【A1、B1】</p> <p>○ワークシートを事前に配付することで、思考する時間を確保することができるようにする。【B4、C1】</p> <p>○全員の振り返りを共有することで、多様な考えに触れることができるようにする。【B4、C1、C2】</p>	<p>○アンケート結果から、クラスの「公正・公平」に対する個々の考えを共有する。【A1、B1】</p> <p>◆友だちのよいところ、苦手なところを考え、疑問をもつことができるようにする。</p>	<p>○範読を聞いて「決めつけること」はよいのか、悪いのかを理由とともに考える。</p> <p>○なぜチサトは主役をしたと言ったのかについて考える。</p> <p>◆「わたし」と「よう子」の考えの是非を考えることで、「決めつけてしまっている」ことに気付かせたい。</p>	<p>○「決めつけないために」大切なことは何かを、ペアで考え、提出用ワークシートに打ち込む。【B4、C1】</p> <p>◆Keynote で作成。School Work で配付、提出。ここで十分に思考する時間を確保したい。</p>	<p>○学習の振り返りを2枚目のワークシートに打ち込み、画面で共有しながら、発表する。【B4、C1、C2】</p> <p>◆Classroom で全員の意見を一覧表で共有する。発表者の画面を拡大提示する。</p>

**主眼** 昇天の場面における、翁や帝に対するかぐや姫の言動を考えることを通して、平安時代の人と現代に生きる私たちに共通する考え方があつたことを理解することができる。

**評価** 「読むこと」において、登場人物の言動の意味について、場面と場面、場面と描写を結び付けながら内容を解釈できたか。

霜月十七日

◎かぐや姫の行動から、かぐや姫の思いを想像する。

- かぐや姫からの贈り物  
翁↓着ていた衣+手紙  
帝↓不死の薬+手紙

問…かぐや姫が翁に「衣」、「帝」に「不死の薬」を贈ったのはなぜ？

- かぐや姫の行動に共感できる  
まあまあ できない

それぞれの理由



**【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】**

個別学習【B3】で、タブレット端末の『パドレット』（アプリ）を利用して、生徒一人ひとりの考えを自分の言葉で表現させ、クラス全体で意見の共有を行うことで、他の生徒の意見を参考にして自分の考えを広げることができるようにする。

見通す	解決	共有	振り返り
<p>○かぐや姫が翁に「衣」を、帝に「不死の薬」を贈った理由を、教科書本文や補助資料の「手紙」を参考にして考える。【B1】</p> <p>◆教科書や補助資料の中の根拠になる部分に線を引かせ、根拠のある意見をもたせる。</p>	<p>○かぐや姫の言動に対する自分の考えを『パドレット』に入力し、他の生徒の考えを知ることによって自分の考えを広げる。【B3】</p> <p>◆自分の考えとは異なる考えや、根拠を明確にしている考えに注目させる。</p>	<p>○それぞれの意見を参考にしながら再度、自分の考えを整理させ、かぐや姫の言動に対して共感できるかどうか考える。【B1、B3】</p> <p>◆「まあまあ共感できる」「共感できない」という考えも尊重し、理由を述べさせる。</p>	<p>○「平安時代の人と現代の私たち」「古典を学ぶ面白さ」というキーワードを基に振り返りを書く。【B1】</p> <p>◆平安時代の人と現代の私たちを比較しながら振り返りを書かせる。</p>

**主眼** 筆者の文章やインターネットで調べたことを基に、情報の活用の仕方について自分の考えを提案することができる。

**評価** 学習したことを基に、情報の信頼性の確かめ方を理解し、ニュースを見極めるポイントをまとめることができたか。

情報社会を生きる  
フェイクニュースからメディアリテラシーについて考える

めあて

フェイクニュースから身を守るには、「規制派」「自由派」どちらが適切か考えよう

[今日の流れ]

- 1 動画視聴
- 2 ニュース探し
- 3 自分の考えを出す
- 4 班で話し合い
- 5 発表
- 6 振り返り

[今日の発表ルール]

- ☆全員で
- ☆画面を表示して
- ☆メリットもデメリットも発表する

フェイクニュースの一覧

生徒が各自で検索したものをカードにして提出。一人一つ以上検索させ、複数検索した場合も1枚のカードにまとめる。

班で話し合った結果をカードで提出

メリット・デメリット両面を書かせる。カードにしたものを発表の場でも用いる。振り返りの段階では、カードの一覧を見ることができる。

**【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】**

- ニュースに対する認識を深めるために、インターネット上の情報に多く触れさせ、フェイクニュースを見極めながら探させる。【A1】
- フェイクニュースにだまされないためにはルールをつくるべきなのか(規制派)、個人のリテラシーを高めるべきなのか(自由派)を話し合うために、まず個人で考え、それを班で共有した上で話し合わせる。【C1、C2】

学習のきっかけ	解決	共有	振り返り
○NHK for School を視聴し、フェイクニュースについて理解を深める。【A1】 ○Web 検索でフェイクニュースを探し、カードで提出する。【B2】	○フェイクニュースに対して自分は「規制派」と「自由派」どちらの意見か決める。 ○提出箱の一覧を見ながらニュースを見極めるポイントを考える。	○「規制派」か「自由派」かを班で話し合い、結果をカードで提出する。【C1、C2】 ○全体の中で画面配信しながら発表し、他からの質問に答える。	○話し合いや発表を通して学んだことを文章でまとめ、カードで提出する。【B1、B3】 ○提出箱の一覧を振り返り、複数の視点でまとめる。【B1、B3】
◆多くの情報に触れさせた上で「巧妙なものを探そう」と指示し、次の学習へつなげる。	◆どちらの意見に決めるにしても、メリット、デメリットの意見を示すよう助言する。	◆メリット、デメリット、結論の発表の仕方を工夫させ、班の全員が前に出て発表する。	◆意見の選択を超えてメディアの見方が深化した点は何かが書けるよう、助言する。

**主眼** 映像教材等から川がつくる地形に関する情報を調べることを通して、川がつくる地形の特徴と生活とのつながりについて理解することができる。

**評価** 川がつくる地形の形成過程や土地利用の方法について、生活とのつながりと関連付けて理解することができたか。

**【板書】**

めあて「川がつくる地形と私たちの生活には、どんなつながりがあるだろうか」

川がつくる地形	形成過程	土地の活用方法
扇状地		
三角州		
台地		

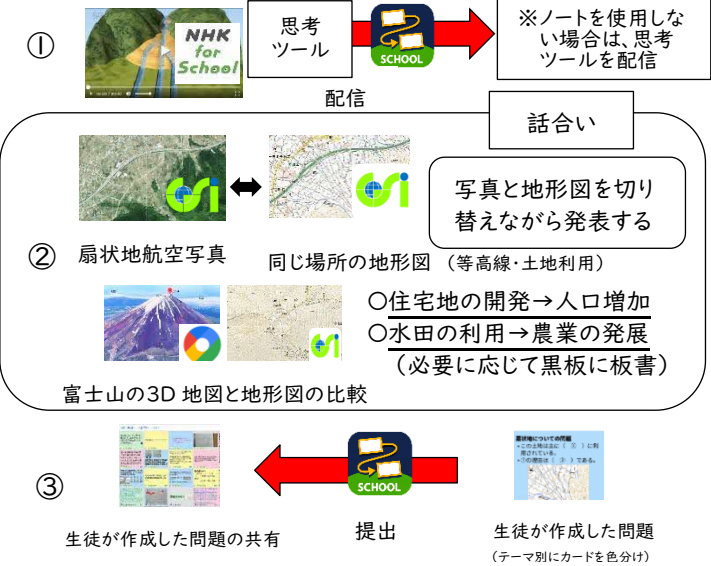
ふりかえり

- ・川がつくる地形を先人たちが活用し、努力してきたことが、今の私たちの豊かな生活につながっている。
- ・自分の町や他の自然がつくる地形についても同じことがいえるのか調べたい。

**【ICT 画面】** 「川の働きてできた地形」 国土地理院/GoogleMaps

**【大型提示装置／教師用端末】**

**【生徒用端末】**



**【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】**

教科書にある写真資料（扇状地や三角州）の場所について、地図アプリの機能による3D化、視点の変更、周囲の地形の確認、等高線や地図記号の確認等を行い効果的に調べることを通して、川がつくる地形の形成過程について、より具体的な理解を促す。【B3】

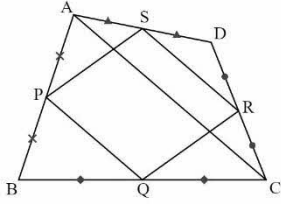
調べる	深める	共有する	振り返る
<ul style="list-style-type: none"> <li>○映像教材と教材文等を参考に川がつくる地形の特徴についてノートにまとめる。【A1】【B3】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○川がつくる地形の特徴と生活とのつながりについて話し合う。【C2】</li> <li>○国土地理院のHPにある地形図、拡大・縮小、写真と地形図の切替等を活用して発表する。【C1】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習内容を基に確認問題を自作し、授業支援アプリを使って提出する。【B4】</li> <li>○友だちの作成した問題を解く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○川がつくる地形の特徴と私たちの生活とのつながりについて分かったことをまとめる。（授業支援アプリ提出も可）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆名称、形成過程、土地の活用方法の視点でまとめるよう伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆二次元コードを提示することでHPの地形図を探しやすいようにする。</li> <li>◆写真の3D化は地形図（等高線）を基にしていることを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆川がつくる地形の特徴と生活とのつながりに関わる生徒の問題を提示・共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地図アプリを活用して身近な地域を観察するよう促す。（日常生活とのつながり）</li> </ul>

**主眼** 中点連結定理を使って、四角形の性質を証明することができる。

**評価**

- 四角形の性質を証明するために、中点連結定理を活用することができたか。
- 条件を変えて発展的に考えようとしていたか。

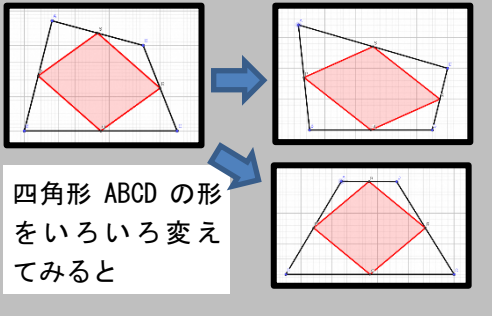
めあて 四角形の4つの辺の中点を結んでできる四角形はどのような四角形になるか調べよう。



対角線ACをひく。  
 $\triangle ABC$ において点P、Qはそれぞれ、辺AB、BCの中点だから、中点連結定理より、  
 $PQ \parallel AC$ 、 $PQ = \frac{1}{2}AC$ ・・・①  
 同じように、 $\triangle ADC$ において  
 $SR \parallel AC$ 、 $SR = \frac{1}{2}AC$ ・・・②

①、②から、  
 $PQ \parallel SR$ 、 $PQ = SR$   
 1組の向かいあう辺が、等しくて平行であるので、四角形PQRSは平行四辺形である。

**【ICT画面等】**



四角形 ABCD の形をいろいろ変えてみると

まとめ  
 (例) 四角形 PQRS がひし形になる場合、  
 ・四角形 ABCD の対角線の長さが等しいとき  
 ・四角形 ABCD が長方形のとき

**【主体的・対話的で深い学びを実現する ICT 活用のポイント】**

- 動的作図ツールを使って、四角形 ABCD の形を変えても四角形 PQRS が平行四辺形であることを捉える。【A1】
- 動的作図ツールを使って、四角形 ABCD の形を簡単に換え、試行錯誤しながら新たな性質を見だし、問いを引き出す。【B3】

学習のきっかけ	解決	発展	振り返り
○四角形 ABCD を作成し、4つの辺の中点を結んでできる四角形を作り、【A1】どのような性質があるかを考える。	○四角形 PQRS が平行四辺形になることを証明する。	○四角形 ABCD にどのような性質があると、四角形 PQRS が長方形、ひし形、正方形になるかを考える。【B3】	○四角形 ABCD と四角形 PQRS の関係をまとめ、学習内容を振り返る。
◆長方形やひし形、正方形になる生徒の図形もとりあげ、後半の発展的な課題につなげる。	◆平行四辺形になるための条件を確認し、結論にむけて中点連結定理の活用方法を考える。	◆四角形 ABCD の形を変えて考えさせたり、四角形 ABCD の対角線に注目させたり、考える視点を示す。	◆いろいろな意見を比べ、共通する点や異なる点を探す。



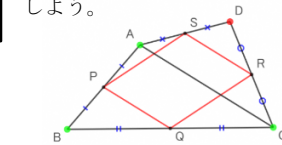
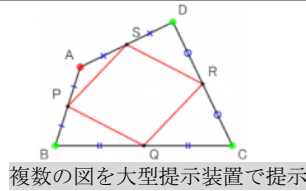
**主眼** 四角形 PQRS がどんな四角形になるかを見だし、その理由について対角線 AC、BD を用いて説明することができる。

**評価** 見だした四角形について図形の性質を用いて確かめ、成り立つ理由を説明することができたか。

めあて 中点連結定理を使って成り立つ理由を説明しよう

**問題** 四角形 ABCD の各辺の中点を結んでできる四角形 PQRS はどんな四角形になるでしょうか。

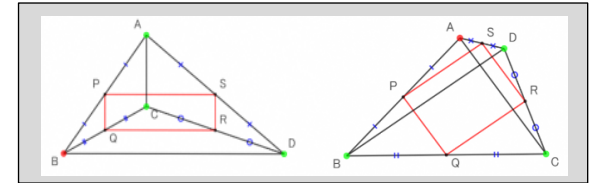
○四角形 PQRS が平行四辺形になる理由について、対角線を用いて説明しよう。



△BAC と △DAC において、点 P、Q、R、S は各辺の中点なので中点連結定理より  
 $2PQ=AC$ 、 $2SR=AC$  なので  $PQ=SR$ …①  
 $PQ//AC$ 、 $SR//AC$  なので  $PQ//SR$ …②  
 ①、②より 1組の対辺が平行でその長さが等しいので四角形 PQRS は平行四辺形になる。

**予想**  
 平行四辺形になりそう。  
 正方形になる場合もありそう。

○四角形 PQRS が長方形になるのは、四角形 ABCD がどんな四角形の場合か？



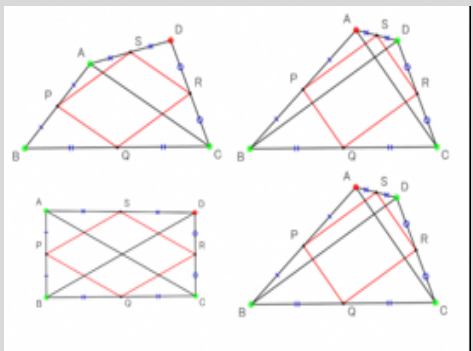
(まとめ) 四角形 PQRS が長方形になるのは、四角形 ABCD の 2つの対角線が垂直に交わっている四角形の場合である。

☆ひし形になるのは？ ☆正方形になるのは？

振り返り～解決のポイント～ (スプレッドシート)  
 ・点を動かしても変化しない関係を確認するには、対角線と三角形に着目すればよい。

**【主体的・対話的で深い学びを実現する ICT 活用のポイント】**

四角形 ABCD の形から四角形 PQRS の形を予想させ、動的作用図ツールを用いることでかく時間を圧縮し、なぜそうなったのかを考え説明する時間をしっかりと確保する。【B1、B2】



**学習のきっかけ**

○タブレットを用いて四角形の形を変化させ、四角形 PQRS の形を予想する。  
 【A1、B1、B2】

◆いつでも平行四辺形になりそうかという問い、正方形や長方形にもなりそうかどうかという予想を引き出す。

**解決**

○四角形 PQRS が平行四辺形になることを説明するために、対角線 AC をひいて考える。

◆対角線 AC をひき、中点連結定理を使えば説明できそうだという見通しを持たせる。

**共有**

○大型提示装置で図を並べて提示して全体で検討する。  
 【A1、C1】  
 ○図に色をつけたり、根拠を説明したりする。  
 【C1、C2】

◆ペアで説明させた後に全体で扱うようにする。

**振り返り**

○長方形になる場合について検討する。  
 ○解決に有効だった方法を振り返りスプレッドシートに入力する。  
 【B4】

◆解決までの流れを確認し、考察の視点を引き出す。

**主眼** 地層モデルのボーリング調査を行い、結果を整理する活動を通して、目には見えない地層の広がりを説明することができる。

**評価** ボーリング資料をもとに、地層の重なりや広がり方について自らの考えを導いたりまとめたりしているか。

○/○( ) **めあて** 地層の広がりを考えよう

「地層」とは…

泥・砂・火山灰などが、層状に堆積したもの。★地層全てを

◎地層のつながりを調べるために…

・大地に穴を掘る ⇒ ボーリング調査

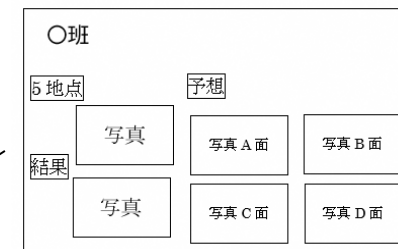
※1枚1枚の層の重なり方を柱状に表したものを柱状図という。

⇒離れた地点の柱状図を比べると、地層の広がりがわかる。

**学習課題** モデル地層の広がりはどうになっているか。

**まとめ**

ボーリング調査を行うことで、地層の広がりや地層の構成物が分かり、大地の歴史を推測することができる。



**学習のきっかけ**

**解決**

**共有**

**振り返り**

【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】

○大型提示装置で画像や資料を提示することにより視覚的支援を行う。【A1】

○導入で実際の地層やボーリング調査の画像を提示することで、教材への興味をもたせる。【A1】

○「解決」の場面で実験方法を動画で提示し、方法を明確にする。

○実験結果と予想をGoogleスライドと大型提示装置により提示することで意見の共有をし、考えを比較しやすくする。【A1】

○地層の写真を基に、地層のつくりとでき方について確認する。【A1、B1】

○地層の広がりの調べ方を考える。【A1】

◆地層の広がりを考えるためにどのような方法で調べればよいかを考える。

○地層モデルのボーリング調査を行い、その結果から地層の広がりを予想する。【A1、B2】

◆5カ所調査する。  
◆結果をもとに、個人で考えた後、グループで考える。

○各班の予想を、地層を覆っているシートに記入する。

○予想を写真に撮り、Googleスライドに貼り、共有する。【B3、C1、C2】

◆グループの代表が結果と共に意見を発表し、その意見をもとにもう一度各班で予想を考える。

○柱状図から地層の広がりを自分の言葉でまとめる。

○ボーリング調査がどのような場面で役立っているか確認する。

◆地層の広がりを明確にすることで、堆積環境や地層の傾きなどが分かることを確認する。

**主眼** エネルギー利用上の問題を把握し、その対策について調べて整理することを通して、持続可能な社会をつくる重要性について理解を深めることができる。

**評価** ICT端末を用いて、エネルギー利用上の問題に対する対策を整理し、持続可能な社会に向けて自分たちができることをまとめているか。

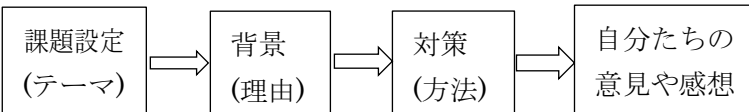
**【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】**

- 課題に対する資料を自ら検索し、意見を交わしながら共同編集・制作を行うことで、主体的・対話的な学びを実現する。【C3】
- スライドを使用して、他の班やクラスの学習状況を確認し、「持続可能な社会に向けて、自分たちができること」を考えさせる。【A1】
- 同時共同編集・制作を行うことで、短時間で多くの情報をまとめることができ、課題に対して多角的・多面的な視点での学習が可能となる。【C3】

**めあて** エネルギーを利用するとき生じる問題に対して、どのような対策がとられているかスライドを使って発信する。

○エネルギー利用上の問題

- ・PM2.5や大気汚染について
- ・資源が有限であることについて
- ・地球温暖化について
- ・放射線について



持続可能な社会へ

振り返りの視点

- ・問題の背景を明確にすること
- ・日常生活と関連付けて整理すること
- ・対策については写真等を用いること
- ・出典を明らかにすること

(生徒が作成したスライドの例)

**大気汚染の対策 (国)**  
**大気汚染防止法**  
環境基準を達成することを目標に規制を設けた**大気汚染防止法**では、工場や事業場などの固定発生源から排出あるいは飛散する**大気汚染物質**について、物質の種類ごと、施設の種・規模ごとに排出基準などを定め、**大気汚染物質**の排出者などはこの基準を遵守(じゅんじゆ)しないとけない。

**PM2.5の背景**



粒子の大きさが非常に小さいことから、肺の奥まで入りやすく、ぜん息や気管支炎などの呼吸器系の疾患への影響のほか、肺がんのリスクの上昇や循環器系への影響も懸念されています。

学習のきっかけ	解決	共有	振り返り
○既習事項や自分たちの生活とのつながりを意識したエネルギー利用上の問題を確認する。【A1】	○どの問題についてまとめるかを班で話し合う。 ○決定した課題について、スライドの作成を行う。【C3】	○スライド作成から10分後、他のクラスや班の作品で工夫されている箇所を共有する。【A1】	○スライド作成で工夫すべきことを振り返る。 ○次時以降、作成・発表を行い、意見交換を行うことを伝える。
◆エネルギー利用と自分たちの暮らしが関わっていることを確認する。	◆課題決定の際は、既習事項や自分たちの生活とのつながりを根拠にして意見を表明させる。	◆スライド作成が困難な生徒には、整理の仕方についてヒントを与える。	◆次時以降に円滑に活動を行うため、メモ欄に次の時間の活動内容をメモさせる。

**主眼** 音楽を形づくっている要素と表現したいイメージとの関わりを捉え、リズムアンサンブルのアドリブ部分を創作することができる。

**評価**  
 ○音楽を形づくっている要素と表現したいイメージとを関わらせながら、音を組み合わせるリズムを創作することができたか。  
 ○強弱や速度等の音楽を形づくっている要素が曲に及ぼす影響に興味をもち、主体的・協働的に創作活動に取り組むことができたか。

**【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】**

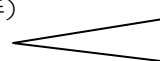
創作したリズムや各グループのこだわりポイントを共有し、今後にかすことができる考えに気付かせる際に使用する。【A1】

**めあて** 「こだわりポイント」を使って、イメージを伝えよう。

例) テーマ “進化” ★こだわりポイント(強弱)



p (手)                      ff (足)



<創作に込めた想い>  
 「進化」(時間、世代が進むにつれて、どんどん変化し発展していく様子)を、はじめは八分音符で締めくくりに四分音符で表現した。だんだん大きくしてワクワク感を、最後に足を大きく踏みならすことで「進化」のすごさを表現した。…

<自分の考え>

テーマ \_\_\_\_\_ ★こだわりポイント(       )

4 \_\_\_\_\_

4

<創作に込めた想い>  
 .....

★こだわりポイント一覧

- ・「音楽の要素」…強弱  
速度  
リズム(音符の組み合わせ)  
音色
- ・楽器(ボディ)…手 足 ひざ 等

※歌詞や発声はなし。

<グループの考え>

テーマ \_\_\_\_\_ ★こだわりポイント(       )

4 \_\_\_\_\_

4

<創作に込めた想い>  
 .....

学習のきっかけ	解決	共有	振り返り
○前時の復習をする。 ・既習部分の練習をする。【A1】 ・映像を見る。【A1】  ○本時のめあてを確認する。	○イメージを出し合う。 ・各自でイメージを膨らませる。 ・タブレットを交換し合い、班のこだわりポイントとリズムを考える。【B4】	○こだわりポイントを基に、練習する。【B4】 ○全体で発表する。 ・各班のアイデアを発表し合う。【A1】 ○気付きを伝え合う。	○振り返りを行う。 ・本時のまとめとして、気付きを基に成果と課題を共有する。 ・振り返りシートに記入する。
◆「音楽を形づくっている要素」をヒントに、こだわりポイントを考えさせる。	◆アイデアを出し合った中から、こだわりポイントをタブレット端末に記録させる。	◆各班のこだわった音楽の要素や工夫ポイントを価値付ける。	◆仲間と表現の工夫について良かった点を振り返らせる。

**主眼** 写真に含まれる美術的要素に着目して、フォトフレームの図案を考えることができる。

**評価**

- 形や材料等の性質や、それらが感情にもたらす効果などが理解できたか。
- 形や材料のよさや美しさを基に、写真に合ったフレームの構想を練ることができたか。
- 主体的に図案を考え、写真に合うように図案の改善を行うことができたか。

**【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】**

手描きと異なり、コピー&ペーストを使うことで、作図にかかる時間が大幅に減少される。また、修正が簡単にできるため、図案を見合いながら、他者の見方や感じ方を参考に、構想を練り直すことができる。【B1、B4、C1】

**めあて** 写真に含まれる美術的要素に着目して、木彫りフォトフレームの図案を考えよう  
(参考資料を順番に説明しながら大型提示装置に展示する)

(完成した作品を電子黒板に映し発表させる)

学習のきっかけ	構 想	共 有	振り返り
<p>○フォトフレームは写真を引き立てるものであると視覚的に理解する。【A1】</p> <p>○写真を選んでそれに合うフレームの図案を考える。</p>	<p>○パワーポイントの作図機能を使って、図案をかく。【B1、B4】</p> <p>○写真への思いとフォトフレームとしての美しさを考える。</p>	<p>○小グループで自他の図案について感想を交流し合う。</p> <p>○全体でも交流し、他者の写真への思いや表現の意図を理解する。【C1】</p>	<p>○リズムやシンメトリーなどの構成美の要素が活用できていることにも注目し、次時からの自分の作品に生かそうとする。</p>
<p>◆木彫の基本的な彫り方を想起し、形や材料のよさや美しさをフレームに生かすことができるようにする。</p>	<p>◆形の繰り返しや大きさ、向きを変えることによさや美しさに着目できるようにする。</p>	<p>◆友達の見方や感じ方を参考にしながら、自らの写真への思いや表現の意図を見つめ直すことができるようにする。</p>	<p>◆形や材料のよさや美しさを基に、イメージを生かして図案を考えていくことができるようにする。</p>

<p><b>主眼</b> 映像による自己分析や、仲間へのアドバイスなどのグループ活動を通して、ハードル走における技術ポイントを理解し、スピードを維持して低く素早くハードルを越えることができる。</p> <p><b>評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○技能の習得に必要な要素を発見することができたか。</li> <li>○スピードを維持して低く素早くハードルを越えることができたか。</li> </ul>	<p>めあて：スピードを維持して低く素早くハードルを越える方法を考えよう。</p> <p>目標：ハードル走のタイム - 50m走のタイム = 1.5秒以内</p> <p>《今日の流れ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○動画でお手本の動きを確認 (Classroom)             <ul style="list-style-type: none"> <li>①アプローチ走 → 何歩でいくのが適切か</li> <li>②空中姿勢 → 前傾姿勢（ディップ姿勢）</li> <li>③抜き足 → 足（つま先）の向き、胸への引きつけ</li> <li>④インターバル → 3歩で跳べているか</li> </ul> </li> <li>○グループ練習 (動画撮影) → お手本動画と比較しよう</li> <li>○グループミーティング (動画を用いて分析) → 課題を明確にし、練習方法を考えよう</li> <li>○個人練習 (遅延カメラアプリ※) → 自己分析をしよう</li> </ul> <p>※ 映像を撮影しながら設定した秒数を遅延させて再生できるアプリ</p>	<p>☆授業の最後に自分の走りを撮影&amp;提出 (Classroom)</p> <p>☆振り返りと気付きの記入 (スプレッドシート)</p>
--	--	--

【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】	学習のきっかけ	解決	共有	振り返り
<ul style="list-style-type: none"> <li>○手本となる動きから技能ポイントを明確にするとともに、生徒自身の動きと比較することで、客観的視点から動作の分析をして課題を明確にすることができるようにする。【B3】</li> <li>○遅延カメラ機能のあるアプリを使用し、練習でのフォームをその都度確認できるようにし、瞬時にフィードバックすることで課題解決を図る。【B3】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○陸上選手のハードリング（お手本動画）を見て、良い点を仲間と伝え合い、確認する。【A1、C1】</li> <li>○技能ポイントをまとめる。【C2】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ポイントを意識しながらグループごとに練習をする。【B1、B3】</li> <li>○仲間の動きとお手本動画とを比較しながら課題克服のための練習を行う。【C3】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○撮影した動きを基にグループでそれぞれの課題について考え、伝え合う。【B3、C2】</li> <li>○一人ひとりに適した練習方法を考える。【B3、C1】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遅延カメラアプリを活用して、自分の動きを確認しながら練習を進める。【B1】</li> <li>○まとめの走りを動画に撮影し、Classroomに提出する。【C1】</li> </ul>
	◆前時で挙げた4項目（アプローチ走、空中姿勢、抜き足、インターバル）について着目させる。	◆練習をスムーズに行えるよう、ハードル、マーカー、メジャー等の道具を準備し、場の設定等を工夫しておく。	◆大型提示装置で手本の動画を、手元のタブレット端末で自分の映像を流し、比較して違いを見付けさせる。	◆三脚を準備し、15秒のタイムラグ設定をし、走り終えてすぐに動きを確認できるようにする。

**主眼** 製作に必要な部品を正確に切り出すために、製作の見通しをもってけがきを行うことができる。

**評価** 安全・適切に材料取り・切断・部品加工を行うことができたか。

○/○ 製作の見通しをもってけがきを行おう。

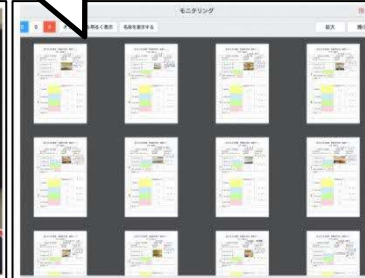
製作の見通し 次の作業工程に向けて

- ・効率的に作業すること
- ・正確に作業すること
- ・安全に作業すること

授業支援アプリの付箋機能を活用し、生徒は手軽に作業状況をチェックできる。また、指導者は個別の進行状況を色などで俯瞰的に把握できる。

授業前後にシートを確認することで作業工程や作業進度などを含め、個別に見通しをもって作業することができる。

作業工程 進行状況確認	
自分の作業が終わったらふせんをめぐりましょう	材料作り
① 1枚目のけがき 終了	
② 2枚目のけがき 終了	
③ 3枚目のけがき	
④ 組立に必要な線のけがき	



材料の写真 作業の様子	作業の進み具合 できたところ 困っているところなど
	11月17日(水) 3枚目の途中まで出来た。次は3枚目の釘を打つ印をつけるところから。
	月 日 ( )

前時までの学習記録の確認

作業工程の説明

個別の作業工程シート

記録の提出

**【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】**

○作業の進度には個人差があることから、ICTを活用し、あらかじめ作業の部分毎の動画を準備し、生徒が自ら状況に応じて随時確認できるようにする。【B1】

○ICTの活用により、進度や習熟に差が出る作業場面において、個別のニーズに応じた支援および合理的な指導体制が構築できる。

○授業支援アプリによるワークシートに、作業工程の振り返りの記述だけでなく動画などのメディア記録を残し、これを授業の前後に確認することで、作業工程や作業進度などを含め、個別に見通しを持って作業することが可能になる。【B1】

**学習のきっかけ**

**解決**

**共有**

**振り返り**

○前時の振り返りや作業記録を確認する。  
【B1】

○作業内容の説明を聞き、手順や方法を理解する。【A1】

○適切にけがきを行いながら作業を行う。  
【B3】

○本時の授業を振り返り、作業過程を記録する。【B1】

◆学習支援アプリの個別シート上で各自確認し、今日の作業内容の見通しをもつ。

◆図面への書き込み、細かい作業の手本については大型モニターを活用し全体へ拡大提示する。めあてや見方・考え方、実物提示はアナログで行い、デジタルとアナログを使い分ける。

◆進行状況を別の大型モニターやタブレットに表示し、指導者は個別指導の優先順位など判断し対応し、指導と評価につなげる。  
◆生徒が作業の方法を随時確認できるよう、動画を準備し、進度や習熟に応じて活用できるようにする。

◆今日の作業内容(作業の動画)や振り返り等を記録し、提出する。

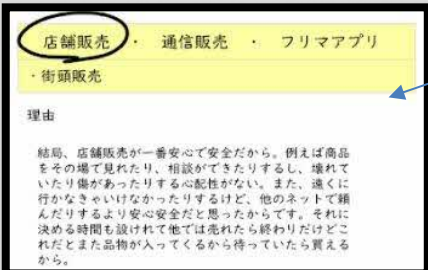
**主眼** 商品購入シミュレーションを通して、店舗販売と無店舗販売それぞれの特徴を整理し、計画的な金銭管理の必要性について、理解することができる。

**評価** 店舗販売と無店舗販売の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解できたか。

**【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】**

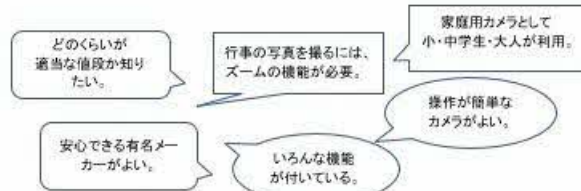
○ICTを活用し商品購入をシミュレーションすることで、生徒一人ひとりが自己の生活に結び付けて商品購入の条件を考えることができる。【B2】

○授業支援アプリで使用するワークシートをクラス閲覧モードに設定し、モニタリングすることで、生徒が互いの考えを見合いながら意見を構築したり、教師が類型化して板書に整理するための意図的指名をしたりすることが可能となる。【B1、C1】



○/○ 高価な商品を購入するシミュレーションをしよう。

・家庭用デジタル一眼レフカメラにふさわしい商品とは。



購入方法の違いによるメリット・デメリット

- |                              |             |                 |                    |
|------------------------------|-------------|-----------------|--------------------|
| ①街頭販売                        | ②カメラ専門店     | ③インターネット通信販売    | ④フリーマーケットアプリ通信販売   |
| ○値引きされている。                   | ○店員に詳しく聞ける。 | ○選択肢が多い。        | ○安い。環境にいい買い方。      |
| ○すぐ手に入る。                     | ○操作の確認ができる。 | ○外国製も買える。       | ○販売者に直接交渉できる。      |
| ○手頃な商品を買える。                  | ○支払いや保証が安心。 | ○家から出なくても買える。   |                    |
| △その場で決めなくてはならない。△店舗が近くにないかも。 |             | △使用者の意見を調べられる。  | △傷や故障などが心配。        |
| △選択肢が少ない。                    |             | △思った商品と違う場合がある。 | △保証が受けられない。        |
| △在庫がないかもしれない。                |             | △届くまで時間がかかる。    | △注文や支払いの仕方が分かりにくい。 |

機能や品質に見合った値段か。  
安心できる→品質や、保証に信頼性があるか。



購入方法や支払い方法を選ぶことは、よりよい消費行動をとるために重要

学習のきっかけ

解決

共有

振り返り

○商品選択のプロセスを振り返る。  
○購入したい商品をインターネット検索で調べ、決定する。【B2】

○購入方法の違いによるメリットやデメリットについて考える。【B1】  
左図データ参照

○購入方法や支払い方法を選ぶことは、よりよい消費行動をとるために重要であることを理解する。【A1、C1】

○本時の授業の振り返りをする。

◆実際にインターネット上でカメラを検索し、購入方法を決定する根拠を出し合う。

◆授業支援アプリ上のワークシートに自分の考えを書き込んだり、他者の考えを閲覧したりすることができるようにする。

◆生徒の考えをモニタリングした上で発表させ、類型化し黒板にそれぞれの特徴を構造化してまとめる。

◆商品のよりよい購入の仕方について明確になった自分の考え・新しく得た考えについてワークシート(紙)に記述し、学習の履歴を残す。



**主眼** 疑問詞を用いた文の形・意味・用法を確かめながら、相手の趣味や特技などを尋ねることができる。

**評価**  
 ○グループで協力して、ALTの紹介文を正しく聞き取り、内容に関する Q and A を作成することができたか。  
 ○疑問詞を用いた疑問文に応答することができたか。

めあて ALTに関する英語クイズを作って出し合おう。

板書計画

<b>本時の流れ</b> ① 前時振り返り ② Listening ③ Q and A 作成 ④ Q and A 発表 ⑤ Communication ⑥ 振り返り	Questions about ALT  ・What Japanese food does ____ like? ・How many books does ____ have? など	ICT 画面	
		前時の振り返り 教員のコメントを見て振り返って提出。	グループで考える Q and A(発表時に見せるスライド)
		ALTの説明 (各グループに異なるものを配付する)	個別の Q and A 活動 録画して教員に提出する。

**【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】**

○日々の small talk の様子をタブレット端末に記録させ、活動しながら振り返ることができるようにする。【B4】

○同時共同編集・制作を行うことで、時間を短縮し、全員が発表したり、答えたりできる時間を確保する。【C3】

学習のきっかけ	解決	共有	振り返り
○前時の Speaking 活動に対する教員のコメントを見て、振り返りをする。【B1】 ○帯活動をする。 ○small talkの様子を録画し、提出する。【B4】	○ALTの紹介VTRを見て、内容をまとめる。【A1、B1、C1、C2】 ○紹介VTRに答えがあるようなクイズをグループで作成する。	○各グループで考えた Q and Aを全体の場で発表し、答えを考える。【C1、C3】	○各グループで考えた質問を、ペア活動で行い、録画して提出する。【B1、C1、B2】 ○振り返りシートで授業の振り返りをする。
◆必要に応じて、つなぎ言葉を振り返る時間を設定する。	◆グループ全員で答えを共有できるようにする。	◆発表の仕方を伝えたり全員が参加できるように支援したりする。	◆できるようになったこと、分からなかったことを表出させる。